

令和7年度 自己評価書

学校名	北海道 留萌 高等学校	校長名	瀧澤 共喜	実施日	令和7年12月22日
-----	-------------	-----	-------	-----	------------

1 学校教育目標

1 学ぶ喜びを知り、教養と専門性を高める人	2 心身を鍛え、夢や志の実現に挑戦できる人
3 郷土に誇りを持ち、他者と協働しながら社会に貢献できる人	

2 本年度の重点目標

1 社会で生きる力の育成 ～「できる」「わかる」の達成感を持たせるとともに、主体的・対話的で深い学びを保障する学習指導及び評価の充実
2 豊かな人間性と健やかな体の育成 ～ 豊かな情操や道徳心、正義感、責任感、規範意識、他者への思いやりを持たせるとともに、自己有用感を高める体験活動の充実
3 機動的な組織の構築と働き方改革の推進 ～ 教員一人一人の持ち味を活かす組織体制を構築するとともに、やりがいのある職場環境をつぶずる取組の充実
4 学びを支える家庭・地域との連携・協働 ～ ふるさとへの誇りや愛着を持たせるとともに、世界に視野を広げ挑戦するキャリア教育の充実

3 自己評価結果

【教育活動】

項 目	今年度の目標	目標達成のための方策と評価の観点	達成状況	評価	自己評価の結果	改善の方策
【生徒を繋ぐ】 社会で生きる力の育成 豊かな人間性と健やかな体の育成	学習指導力の向上 (総合的な探究の時間の充実)	新学習指導要領の趣旨を踏まえた主体的・対話的で深い学びの授業づくりを個人、教科、学校全体で取り組んでいるか。	3. 13	A	校内研修や研究授業を通して、授業改善に努めた。学習状況調査をもとに、学習指導を見直した。	生徒の実態や地域の要望、各種調査の結果を踏まえ、社会の変化に応じた教育課程の不断の見直しや、学習指導の改善を行う。 また、調査・情報共有を継続し、生徒の小さな変化を見逃すことなく対応する。
	生徒指導力の向上	生徒との対話やアンケート調査による実態把握や一人一人の特性を理解した行動連携を行っているか。	3. 21	A	いじめアンケートや各種情報を担任及び学年主任と共有し、一人ひとりの状況を把握し適切に対応した。	
		教育相談係やスクールカウンセラー、パートナーティーチャー、関係機関と連携するとともに、組織として、問題行動等の未然防止、早期発見、早期解決にあたっているか。	3. 24	A	教育相談担当者が中心となって問題にあたりそのことが課題の未然防止、早期発見、早期解決につながった。	
	指導と評価の一体化	短期・中期・長期の視点で、実践の評価を行い、その成果や課題を指導に活かしているか。	3. 16	A	学習状況調査や学力指標をもとに、指導の改善を行っている。	
【実践を繋ぐ】 機動的な組織の構築	グループ制の推進	グループリーダーを中心に、効率的な業務の遂行とともに、柔軟かつ不断の進行管理を行っているか。	3. 13	A	分掌長の指示のもと、グループでの業務の進行管理がなされていた。	部長・主任・科長を中心に、各種業務の情報共有を行い、学校全体で連携を図っていく。 教育課程については委員会と連携して編成する。教育局や関係機関と連携し、効果的な職員研修を計画的に実施する。
	情報共有と連携	分掌や学年・年次・教科での情報共有はもとより、部長・主任・科長を中心として、互いの連携を図っているか。また、積極的に研修に参加しているか。	3. 03	B	部長・主任・科長間での情報共有はできてきたが、うまく連携が図れない場面もあった。校外研修は積極的に参加することができた。	
	生徒のニーズの反映	組織体制や情報共有の成果を、生徒のニーズを踏まえた教育活動の充実につなげているか。	2. 92	B	校則の見直しについて、生徒の要望を聞き、教育間で協議して高速の見直しができた。	
【教職員を繋ぐ】 働き方改革の推進	職場環境の整備 (ICT 活用の充実)	業務の平準化を図り、やりがいのある職場や風通しの良い職場づくりを行っているか。また、効率的な業務の推進や職場環境づくりに参画しているか。	2. 92	B	業務の平準化について進めているが今後も見直しを進め分掌等と連携を図り改善していく。	働き方改革の推進に向け、今後も部長・主任・科長と連携して各種業務を精査し効率化を図る。 服務規律の保持については、様々な事例を提示しながら今後も研修を行う。
	働き方改革の推進	アクションプランの趣旨を理解し、業務の効率化に努めるとともに、勤務時間の管理や部活動の休養日等の実施等に取り組んでいるか。	2. 95	B	打合せ票や会議資料のペーパーレス、変形労働制の効果的な活用等に取り組んだ。	
	服務規律の遵守	教育公務員としての、自覚を持った行動を行っているか。また、相互牽制を適切に行っているか。	3. 32	A	不祥事の周知等で服務規律の遵守に努めた。教育公務員として、一人ひとりの自覚の高揚が図られた。	
【地域を繋ぐ】 学びを支える家庭・地域との連携・協働	適切な情報提供	ホームページ等を活用した情報発信を適時に行い、学校の取組や生徒の活動の様子を発信しているか。	3. 26	A	一斉メールを活用し、情報発信が素早く行われた。その他の情報発信の手段においても、適宜行った。	情報発信手段の精査を行い、発信内容に応じて発信手段を見極め、より効果的に学校の取組や生徒の様子を発信したい。 家庭・地域・学校とのつながりを今後も大切にし、様々な活動を実施していきたい。さらに、自治体や地域の団体にも働き掛けを行い、今後も協力を仰ぎたい。
	関係機関等との連携	地域の教育力を活用した取組や関係機関との協力・連携を、生徒の成長やキャリア発達を支援するための取組としているか。	3. 05	A	今年度は自治体や地域の団体に働き掛けを行い、行事を運営することができた。また、市からの支援もあり、様々な活動を例年以上に行うことができた。	
	説明責任の履行	保護者の視点に立った説明やサポートを、時期や内容ともに適切に行っているか。また、互いの役割を踏まえた信頼関係に基づく連携を行っているか。	3. 11	A	計画通り保護者説明会を進学・就職とともに、外部の方にも参加いただき実施できた。	

【達成状況の指標（各教職員による評価）】

- 4 具体的な取り組みが進み、十分目標が達成できる見通しである。
2 具体的な取り組みが進められているが、まだ不十分である。

- 3 具体的な取り組みは進められつつあり、概ね目標が達成できる見通しである。
1 課題の重要度は理解しているが、具体的な取り組みがほとんど検討されていない。

【評価の指標】

- A 十分な取組が行われた。 B おおむね十分な取組が行われた。 C やや取組が不十分で改善が必要である。 D 取組が不十分で抜本的な改善が必要である。